

(R7.7.17 開催)

## 令和7年度第1回 子ども子育て会議の委員の意見

「(仮称)長久手市こども条例の骨子(案)」について、意見を伺う前に、前回の子ども子育て会議での各委員からの発言について、振り返りを行いたいと思います。

## 【前回の会議で、委員に発言いただいた内容】

**「こどもの権利」を守るうえで大人たちが「大切にすべきこと」「できること」は何ですか？**

- A こどもと接する際には、こどもの話を丁寧に聞くことを意識しています。  
こどもは、まだ自分の思いをうまく表現できないため、こちらから投げかけ、導くよう心がけています。  
最後まで納得するまで話し合うことが大切だと考えています。話す際は、感情が高ぶって、大きな声を出さないよう心がけています。
- B こどもは「こどもだから」という理由で、何でも断られ、済まされることが多い気がします。  
「こどもだから」で済ませるのではなく、こどもであっても、どうして「できないか」を言葉で説明することが大事だと思っています。
- C 私が、ボランティアをしてる際、こどもから「なんで来ているの」と聞かれました。「あなたが、かわいいから会いに来たんだよ」と伝えると嬉しそうな顔をしたのが印象的でした。自分の存在を認めてあげることが大事だと思っています。
- D こどもの成長の段階に合わせた説明をすること、よく話を聞くこと、表情を見ること、普段の生活の様子を見ることが大事だと思っています。こどもの目線に立ち、こどもが理解できる言葉で話して、理解できているかを確認することが大事だと思っています。
- E こどもの気持ちをきちんと聞くことと、こども目線を忘れないことが大切だと思っています。誰しもこどもから大人になる際に、人の気持ち考えるようになったり、色んな経験をしてきたと思うので、そうした経験をこどもたちのために活かしていくことが大切だと思っています。
- F 子どもを大人と同じ権利主体として認めながらも、子どもに必要な保護や支援を適切に大人が責任をもって提供することが大切だと思っています。子どもの意見や意思を聞くことは大切ですが、最終的にどうするかは大人が責任をもって決めることだと思っています。子どもたちを説得し、納得してもらう過程に最初は疲れるかもしれませんが、慣れていけると 생각합니다。

G こどもたちの身になり気持ちに寄り添い、その意見に耳を傾け、可能な限り叶えていくことが大切だと思います。

H どんなに小さなこどもでも、自分の気持ちがあると思います。まずはこどもの気持ちに耳を傾けること、そして第三者の大人が受け止めてあげることが大切です。こどもが安心できる環境や関わりをつくること、ひとりひとりを大切にすることということが大切だと思います。

I こどもの育ちは家庭環境によって大きく影響されます。そのような中で、自分自身ができることは、まずは、自分の家族を守ることだと考えています。ひとりひとりがそうした心がけを持つことがこどもの権利が大切にされる世界につながっていくのではないのでしょうか。

J こども一人ひとりに合わせた柔軟な教育があると良いと思います。  
また、一人ひとりに向き合って、自分がこどもに抱いている固定観念をはずしたうえで接するという意識が大事だと思います。こどもが「やってみたい」という気持ちを持っていたら、それを応援する姿勢が必要だと思います。

K 大人がこどもの話にしっかりと耳を傾けることが大切だと思います。そして、大人の判断だけで良し悪しを決めないようにすること。こどもにも理由があるので、しっかりと聞く姿勢が大切です。加えて、こどもは発達の途上にある存在であることを大人がしっかりと認識しておくべきです。

L こどもには、思いや考えがあります。大人は、言葉にならない気持ち、表現できない思いを聞き出し、できる限り、叶えてあげる努力をすべきです。叶えられない場合は、その理由をこどもに分かる形で説明することが大切です。

さらに、こどもがこどもらしく生きれるよう、環境を整えることが大人の責務であると感じています。発達には段階の登り降りがあるので、それぞれの成長の時期で楽しめるような環境づくりを大人たちが作っていく義務があります。